

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
【発行日】平成23年3月3日 (2011.3.3)

【公開番号】特開2008-151784(P2008-151784A)  
【公開日】平成20年7月3日 (2008.7.3)  
【年通号数】公開・登録公報2008-026  
【出願番号】特願2007-319724(P2007-319724)  
【国際特許分類】

G 0 1 N 21/64 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 21/64 F

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月17日 (2011.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

信号の自己蛍光を特定する方法であって、  
単一のプローブをサンプルに適用する工程、  
単一波長の光源を用いてサンプルを励起する工程、  
光源からある距離にサンプルから光を放出させる工程、  
放出された光をスプリットする工程、  
スプリットされた光を少なくとも 2 つの別個のチャンネル内に集める工程であって、別個のチャンネルの第 1 のチャンネルは、別個のチャンネルの第 2 のチャンネルよりも光源の周波数に近く、第 2 のチャンネルは、第 1 のチャンネルよりも単一のプローブの発光周波数に近い、前記工程、

第 1 のチャンネル内に集められた光、及び第 2 のチャンネル内に集められた光を調査する工程、及び

調査に基づいて出力信号を発生する工程

を含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記調査する工程は、前記第 1 のチャンネルの光信号の値を前記第 2 のチャンネルの光信号の値から減算して残り信号値を求める工程を含み、前記第 2 のチャンネルの光信号の値が前記第 1 のチャンネルの光信号の値よりも大きい時に、前記第 2 のチャンネルの残り信号値を使用してイメージを生成することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

上記調査する工程は、前記第 1 のチャンネル内の光信号の値を前記第 2 のチャンネル内の光信号の値と比較する工程と、前記比較する工程が前記第 2 のチャンネル内の光値が前記第 1 のチャンネル内の光値よりも大きいことを決定するときに、前記第 2 のチャンネル内の光値が所望の信号であることを決定する工程とを含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。